

八幡浜港の観光拠点『八幡浜みなと』には、毎年100万人の来場者があるが、そのほとんどは、みなとでの短期滞在のみで、市内に還流することはない。また、市内には多くの観光資源が眠っているのに、市民はそれに気づいていない。そこで、市内中心部全体を、八幡浜市の「八」にちなんで8つの教室とそれを結ぶ廊下から構成されるバーチャルな『まちの学校』に見立てて、みなとを訪れる観光客を始め、市外から訪れる人に八幡浜市の良さをしってもらうとともに、市民も自分たちの街の魅力を一緒に学んでいく。

まちの学校

郷土資料室

古い建物や街並み
With ボランティアガイド

休憩室

自転車ごと宿泊
可能な宿泊施設
For サイクリスト

保健室

<提供メニュー>
糖尿病対策食
湯治 (温泉)
運動療法 (ウォーキングコース)
リハビリ (空き店舗)
→ Health tourism

社会科実習室

市内高校生 (農・工・商)
(農・工) 製品
(商) 販売
in 商店街

情報処理室

ビッグデータ分析
(滞在時間・訪問場所、
利用者情報等)
→ 市内に眠る宝
を発掘

運動場

インスタ映えする風景・
建造物等 (市内全域)
→ 観光

八幡浜
みなと
来場者
100万人!

実証
実験

まちの廊下 (みなと→市内中心部)
1～2人乗り自動運車

給食室

新鮮な魚介類
八幡浜ちゃんぽん
八幡浜発祥「塩パン」等
For 宿泊者
→ 飲食店と宿泊施設の
の連携

技術室

手づくり品の販売、
ワークショップ
By ハンドメイド愛好者

アプリ
開発

<ポイント付与>

- ボランティアガイドに案内してもらった、案内した回数
- 市内に滞在した時間
- 移動距離 等

→ 市内商店で使える商品券や特産品に交換!
健康指導を受けられる!

<観光案内>

- 各地区公民館単位で発掘 (インスタ映えする風景、建造物等)
- フラッシュアップして登録
自動運転と連動した観光案内、目的地までの運行補助

学生証アプリとして配布

■ 各種団体と役割分担

- ・ チームotto会 (全体調整)
- ・ 市立八幡浜総合病院 (まちの保健室)、市内の飲食店 (まちの保健室/まちの給食室)
- ・ 温泉・銭湯 (まちの保健室/まちの休憩室)、ボランティアガイド (まちの郷土資料室)
- ・ 各地区公民館 (まちの運動場)、市内高校 (まちの社会科実習室/まちの技術室)
- ・ リノベ空き家・空き店舗 (まちの休憩室)、家庭の手仕事職人 (まちの技術室)
- ・ 各商店街 (まちの郷土資料室/まちの社会科実習室/まちの技術室)、市 (バックアップ)

■ 当企画のキーデバイス

- ① 『まちの学校の学生証』…学生証として、スマホのアプリを配布する。
- ② 『まちの学校の四輪車』…歩行困難者等には、自動運転車を用意する。
- ③ キーデバイスの調達方法
 - ・ 学生証アプリ…八幡浜工業高校や愛媛大学等と連携して開発。開発資金は、クラウドファンディング (八幡浜市役所と連携して「ふるさと納税」扱い)
 - ・ 自動運転車…国内大手の自動車メーカー、またはベンチャー企業に対して、八幡浜市が実証実験の場を提供するという位置づけにし、メーカーに開発を依頼する。

■ 資金計画

- ・ アプリのポイント還元…アプリ内の広告収入と各教室の担当からの寄付による。アプリを提示しての買い物に対しては、利用店舗から数パーセントの協力を徴収する。
- ・ その他各教室における初期投資…各教室の担当負担とする。

■ 進め方

- ・ 基本的に各教室毎に、それぞれのペースで事業に取り組む。
- ・ チームotto会は、定期的に連絡会議を開き、各教室の進行管理を行う。

